



まちの魅力を再発見

7/21 安曇野百選ウォークラリー in 土曜市

普段見慣れたまちの魅力を再発見してもらおうと安曇野百選プロジェクトによるウォークラリーが7月21日、豊科商店街の土曜市に合わせて行われました。この日は約200人が参加し商店街などを散策。チェックポイントの法蔵寺では、夕暮れの境内や鐘楼門の仁王像がライトアップされたほか、明治期に学校があったことなど寺に関するクイズが出題され、参加者は普段とは違うまちの表情を楽しんでいました。



淡緑色の里山の宝石

7/19 穂高天蚕の収繭作業

市特産の天蚕の繭を選別する収繭作業が7月19日、市天蚕センター（穂高有明）で行われました。市天蚕振興会（木口和英会長）の会員の皆さんが、集めた繭を大きさや品質ごとに選別しました。本年は、昨年の4倍となる約2万粒を見込んでいます。天蚕業は有明地域で江戸時代から続いていますが、飼育の難しさから糸の生産量も少なく、また、淡い緑色した美しいつやから「繊維の女王」と呼ばれています。集められた繭は糸に紡がれ、織物やショールなどに加工されます。

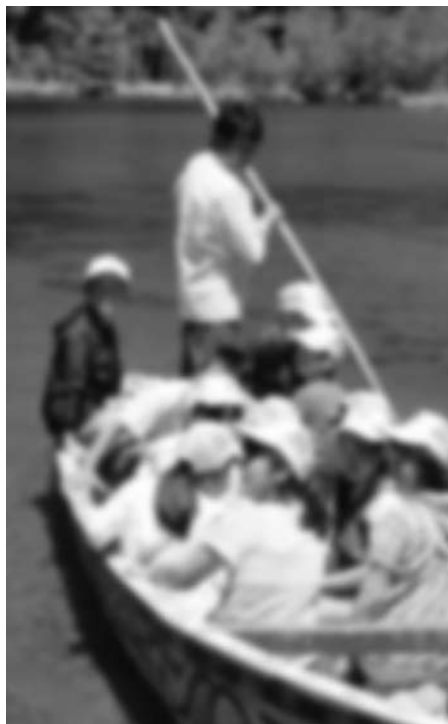
安曇野で夏の思い出づくり

7/31 ～ 市内で友好都市青少年交流

友好都市である福岡市東区と神奈川県真鶴町からそれぞれ小中学生が安曇野市を訪れ、市内の小中学生と宿泊しながら交流を深めました。

福岡市東区との交流は、弥生時代に現在の福岡市一帯で勢力を誇っていた「安（阿）曇族」が、安曇野に移り住んだという伝説がきっかけで平成3年から旧穂高町で始まったものです。7月31日から4日間の日程で9人の子どもたちが訪れ、式典で記念品を交換したり、国営アルプスあづみの公園や上高地の明神池などを見学したりしました。

また、真鶴町との交流は海と山のまちとの交流を深めようと平成7年から旧堀金村で始まったもので、8月3日と4日の2日間、31人の子どもたちが訪れました。滞在中は穂高川での水遊び、キャンプファイヤーなど、安曇野の自然を満喫し、海と山のまちの交流を深めました。



里山の自然の中で宝物を発見

8/2 明科みつけ隊

明科公民館主催の小学生対象野外体験活動「明科みつけ隊」が8月2日、長峰山山頂周辺で行われました。「明科みつけ隊」は、明科地域の身近な自然に親しみながら、さまざまな体験を通して、子どもたちが健康でたくましく成長することを目的に旧明科町時代から行われています。

当日は、市内の小学生30人とその保護者8人が参加し、アルプス連峰や安曇平を見ながら「松本盆地の生い立ち」について話を聞いたり、昆虫や化石の観察、野外での調理体験などを行ったりしました。午前中の昆虫観察では、山頂周辺で各自がチョウなどを捕虫網で捕らえた後、講師から説明を受けながら、絶滅危ぐ種のスジグロチャバネセセリなど数種類の昆虫を観察しました。午後は、長峰山が大昔海の底にあった証拠である化石を観察し、拾った石の中に魚などの化石がないか虫めがねで熱心に探していました。

参加した麻王咲希さん（豊科南小3年）は「化石探しが一番楽しかったです。また、山遊びをやりたいです」と普段の遊び場所と違う里山での体験を話していました。



全国大会での健闘を誓う

7/18 穂高商業高校全国大会出場選手表敬訪問

全国高校総体や、情報処理、簿記の全国大会に出場する穂高商業高校の生徒7人が7月18日、宮澤市長を表敬訪問し、大会での健闘を誓いました。宮澤市長は「日ごろの力を十二分に発揮してほしい。大会では全国の皆さんとの交流も深めてください」と激励しました。情報処理競技に出場するコンピュータ部・部長の矢吹駿君（3年）は「いつも通りの気持ちで臨み、大会では成果を出せるよう頑張りたい」と意気込みを話してくれました。



安曇野の若手演奏家が集う

7/22 あづみの新進音楽家演奏会

あづみの新進音楽家演奏会（市教育委員会主催）が7月22日、穂高学習交流センター「みらい」で開催されました。この催しは、安曇野で活動する若手音楽家に演奏の機会を提供するとともに、多くの市民の皆さんに身近な場で音楽に触れてもらおうと昨年から行われています。この日は9組が出演し、会場に集まった約160人の観客は、若手演奏家たちが奏でる音色を楽しんでいました。この演奏会は12月に行われる「みらいクリスマスコンサート」の選考会も兼ね、審査では観客のアンケートなども参考にされます。審査員を務めた桐朋学園大学名誉教授の飯沼信義さんは「この音楽祭が続けられ、安曇野から世界的に活躍する演奏家が育ってほしい」と期待を寄せました。